

資料

- ① 構成メンバー
- ② 研究プロジェクト一覧
- ③ 協力研究者一覧
- ④ シンポジウム・セミナー一覧
- ⑤ 寄贈図書一覧
- ⑥ 電子化イベント一覧
- ⑦ 国立大学法人お茶の水女子大学
ジェンダー研究所規則
- ⑧ 国立大学法人お茶の水女子大学
特別招聘教授に関する規則
- ⑨ 『ジェンダー研究』編集方針・
投稿規程
- ⑩ ジェンダー研究所ウェブサイト
プライバシー・ポリシー

【資料】①構成メンバー

【所長】

戸谷陽子(基幹研究院人文科学系・文教育学部教授)

《任期》

2021(R3)年4月1日～2023(R5)年3月31日

【専任教員】

申琪榮(ジェンダー研究所教授)

2015(H27)年4月1日～

大橋史恵(ジェンダー研究所准教授)

2018(H30)年9月1日～

【学内研究員】

棚橋訓(基幹研究院人間科学系・文教育学部教授)

2021(R3)年4月1日～2023(R5)年3月31日

小玉亮子(基幹研究院人間科学系・文教育学部教授)

2021(R3)年4月1日～2023(R5)年3月31日

斎藤悦子(基幹研究院人間科学系・生活科学部教授)

2021(R3)年4月1日～2023(R5)年3月31日

石丸径一郎(基幹研究院人間科学系・生活科学部准教授)

2021(R3)年4月1日～2023(R5)年3月31日

【特任講師】

仙波由加里

2021(R3)年4月1日～2022(R4)年3月31日

平野恵子

2021(R3)年4月1日～2022(R4)年3月31日

【特任リサーチフェロー／リサーチ・アドミニストレーター】

吉原公美

2021(R3)年4月1日～2022(R4)年3月31日

【アカデミック・アシスタント】

稲垣明子

2021(R3)年4月1日～2022(R4)年3月31日

梅田由紀子

2021(R3)年4月1日～2022(R4)年3月31日

関根里奈子

2021(R3)年4月1日～2022(R4)年3月31日

滝美香

2021(R3)年4月1日～2022(R4)年3月31日

和田容子

2021(R3)年4月1日～2022(R4)年3月31日

【客員研究員】

足立眞理子(お茶の水女子大学名誉教授)

2021(R3)年4月1日～2022(R4)年3月31日

【研究協力員】

板井広明(専修大学経済学部准教授)

2021(R3)年4月1日～2022(R4)年3月31日

佐野潤子(慶應義塾大学ファイナンス・ジェロントロジー研究センター特任講師)

2021(R3)年4月1日～2022(R4)年3月31日



所長 戸谷 陽子

基幹研究院人文科学系・教授

文教育学部言語文化学科英語圏言語文化コース

博士前期課程比較社会文化学専攻英語圏・仏語圏文化学コース

博士後期課程比較社会文化学専攻言語文化論領域

専門分野: 舞台芸術論、パフォーマンス研究、アメリカ演劇、文化政策、比較演劇論

所属学会等

日本英文学会(編集委員)

日本アメリカ文学会(東京支部評議員・編集委員)

日本アメリカ演劇学会(評議員)

日本アメリカ学会

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構(学位審査会専門委員)

主な業績

《書評》

責志雅之『アメリカ演劇，劇作家たちのポリティクス——他者との遭遇とその行方』、2021 年度『アメリカ文学研究』第 58 号(日文号)pp.84-90.

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:20K00385)「米国舞台・表象空間における日本人ストックキャラクターの系譜と展開」、2020 年度～2023 年度、研究代表者
- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:16K02483)「米国舞台芸術の理論と実践におけるサブジャンルの成立と発展—人形・仮面・演じる物体」、2016 年度～2021 年度、研究代表者



専任教員(教授) 申 琪榮

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース(コース長)

生活科学部生活社会科学講座

専門分野: ジェンダーと政治、比較政治学(東アジア)、フェミニズム理論、男女共同
参画政策

所属学会等 International Political Science Association, American Political Science Association

European Conference on Gender and Politics, International Association for Feminist Economics

日本政治学会、日本比較政治学会、日本社会政策学会、日本フェミニスト経済学会、
「女性・戦争・人権」学会

ソウル大学日本研究所『日本批評』、西江大学社会科学研究所『社会科学研究』、

釜山大学女性学研究所『女性学研究』編集委員

日米女性政治学者シンポジウム(JAWS、アメリカ政治学会国際交流プログラム)日本側コーディネーター

同志社大学人文社会科学研究所客員研究員

『ジェンダー研究』編集長

一般社団法人 パリテ・アカデミー共同代表

韓国女性政策研究院 Visiting Scholar (2022年9月)

主な業績

《論文等》

Shin, Ki-young. 2021. “Beyond #WithYou: The New Generation of Feminists and the #MeToo Movement in South Korea.” *Politics & Gender* 17(3): 507-513 September.

申琪榮、2021. 「セクシュアル・ハラスメントの理論的展開——4つの害アプローチ——」、社会政策学会誌『社会政策』第13巻第1号(通巻第38号): 19-34.

申琪榮、2021. 「#MeToo 運動とフェミニズムの「大衆化」——本書の解説に代えて」、『#MeToo の政治学』. 大月書店:193-205.

申琪榮、2021. 「『政治とお金』のジェンダー格差——女性を阻む政治資金問題の解消へ」、『世界』. 岩波書店. 946 (July): 182-188.

申琪榮、2021. 「『候補者均等法』改正で政治分野のジェンダー格差の何が変わるのか」、『MOVING』. 北九州市立男女共同参画センター. 95号:2-3.

申琪榮、2021. インタビュー記事「女性の政治家を増やさなくてはならないワケ——政治という仕事を魅力あるものに」、『望星』. 東海教育研究所. 52(8): 18-25.

申琪榮、2022. インタビュー記事「ジェンダーの視点で女性の政治参画を考える」、『社会運動』. 一般社団法人市民セクター政策機構. 2022-1、445:121-128.

《翻訳書》

『#MeToo の政治学』. 2021. 大月書店. 翻訳監修

《Online 記事寄稿》

Shin, Ki-young. 2021. “The Return of Old Boys’ Politics in South Korea?” *Academic Blog Counting Counts*

<https://countingcountsblog.wordpress.com/2022/03/28/the-return-of-old-boys-politics-in-south-korea/>

申琪榮、2021. 「女性候補が少ないのは女性のせいなのか」日本で女性議員が増えない本当の理由」

President Online、<https://president.jp/articles/-/51268>

《学会報告》

申琪榮、2022. 「韓国からの示唆」、日本学術会議 公開シンポジウム「女性の政治参画をどう進めるか?」、3月13日(オンライン)

《招待講演等》(すべてオンライン開催)

2021 韓国女性政策研究院専門家フォーラム「ジェンダー視点から見た日本政治の現在と課題」、2021年9月14日

2021 韓国女性政策研究院国際フォーラム「Building Back Better and Women’s Political Empowerment in Asia 1」、基調講演、2021年9月30日

2021 韓国女性政策研究院 研究プロジェクト報告書「外交安保政策の性主流化方案:フェミニスト外交政策を中心に」諮問委員、2021年12月

2022 インドネシア国際政治学会主催:オンライン講演会:Presidential Election of South Korea、3月31日

《他大学講演》(すべてオンライン開催)

2021 名古屋大学大学院法学研究科「現代政治学研究」集中講義 9月27日～30日

2021 上智大学 プロフェッショナル・スタディーズ「教養としてのジェンダー」講師 11月29日

2021 ソウル大学「現代家族論」ゲスト講義 12月2日

2021 津田塾大学「ジェンダーと社会変動」ゲスト講義 12月15日

2021 一橋大学 グローバルリーダーズプログラム “Women in Politics in Japan” ゲスト講義 10月25日

《競争的資金》

・科学研究費基盤研究 C(課題番号:19K12604)「ジェンダークォータの政治学——制度化と抵抗」、2019～2022年度、研究代表者

・科学研究費基盤研究 B(課題番号:18H00817)「女性の政治参画の障壁:国会議員・県連への郵送・ヒアリング調査」、2018～2022年度(研究代表者:三浦まり・上智大学)、研究分担者

《企画運営国際シンポジウム》

・「ジェンダー視点に基づく美術史研究の現在」、2021年12月18日

・「#MeTooの政治学:#MeTooが残したフェミニズムの課題を考える」、2022年1月21日



専任教員(准教授) 大橋 史恵

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域
博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース
文教育学部グローバル文化学環

専門分野: ジェンダー研究、国際社会学、中国地域研究

所属学会等 International Association for Feminist Economics

日本社会学会
関東社会学会
日本フェミニスト経済学会(幹事会役員、『経済社会とジェンダー』編集長)
ジェンダー史学会
現代中国学会
中国女性史研究会
経済理論学会分野別ジェンダー分科会

主な業績

《著書・論文》

2021 “Rearrangement of Gender Order in Post-Mao China: Changing Networks of Women’s Federations,” in Kohama, Masako and Linda Grove (eds.) *Gender History in China*, Kyoto University Press & Trans Pacific Press, 2021.

《書評》

2021 「小浜正子著『一人っ子政策と中国社会』、『アジア経済』62 巻 4 号、pp. 113-116、2021 年。

《学会報告》

2021 〈黄金与姐妹关系:战后香港家庭佣工的经济能动性〉, 中国当代史研究中心第十届中国当代史研究工作坊, 東洋文庫現代中国研究班「国際関係・文化」グループ・华东师范大学社会主义历史与文献研究院, 2021 年 12 月 4 日(オンライン開催)。

《競争的資金》

- ・科学研究費基盤研究 B(課題番号:20H01468)「新興アジアにおける IT-BPO の国際分業の成立とジェンダー」、2020～2022 年度(研究代表者:堀芳枝・早稲田大学)、研究分担者
- ・科学研究費基盤研究 B(課題番号:19H01578)「再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯」、2019 年度～2021 年度(研究代表者:定松文・恵泉女学園大学)、研究分担者
- ・科学研究費基盤研究 C(課題番号:19K12603)「香港における移住女性の再生産労働力配置——「グローバル・シティ」のジェンダー分析」、2019 年度～2021 年度、研究代表者
- ・科学研究費国際共同研究加速基金(国際共同研究強化 B) (課題番号:21KK0033)「人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー」、2021～2024 年度、研究分担者



特任講師 仙波 由加里

専門分野: 生命倫理学、生殖技術とジェンダー、生殖技術に関連する倫理的問題

所属学会等

日本医学哲学・倫理学会(国際誌編集委員・広報委員会委員)
日本生命倫理学会(評議委員)
日本生殖看護学会
European Society of Human Reproduction and Embryology (ESHRE)
Society for Social Studies of Science (4S)

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「生殖医療とジェンダー」(18 頁参照) / 「諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究」(18 頁参照)
- ・ NTNU 国際共同研究プロジェクト「NJ_BREGED プロジェクト」プロジェクトメンバー(91~94 頁参照)
- ・ IGS セミナー(生殖領域)「商業的精子バンクに関する問題」企画・コーディネーター・司会(41 頁参照) / 「生理の貧困」企画・コーディネーター・司会(45 頁参照) / 「出自を知ることがなぜ重要なのか」企画・コーディネーター・司会(49 頁参照) / 「不妊と男性のセクシュアリティ」企画・コーディネーター・司会(56 頁参照)
- ・ お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構主催国際シンポジウム「グローバル女性リーダーシップ: アジアからの提言」における「国際共同プロジェクト: INTPART プロジェクト」成果報告(38 頁参照)
- ・ IGS セミナー(生殖領域)4 本の報告書(各日本語・英語)の作成と記録集(IPS シリーズ)の編集(110 頁参照)
- ・ IGS 研究協力員研究報告会、企画・コーディネーター・司会(66 頁参照)ならびに報告書(日本語・英語)の作成
- ・ 雑誌『ジェンダー研究』編集スタッフ。主に特集の研究ノートと現場報告論文および書評編集担当(106~109 頁参照)
- ・ 海外からの問い合わせに対応
- ・ IGS の HP のイベント報告(英語)の確認作業

主な業績

《著書・論文》

2022. 1 (共著) Guro Korsnes Kristensen and Yukari Semba, “Chapter 11: A matter of gender (in)equality? Public discourses on declining fertility rates in Japan and Norway”(pp. 173-190), M. Ishii, G. K. Kristensen and Pricilla Ringrose eds., *Comparative Perspectives on Gender Equality in Japan*, Routledge: London and NY.
2022. 1 (共著) Merete Lee and Yukari Semba, “Chapter 12: Assisted reproduction with donated eggs and sperm: A comparison of regulations on assisted reproduction in Norway and Japan”(pp. 191-205), M. Ishii, G. K. Kristensen and Pricilla Ringrose eds., *Comparative Perspectives on Gender Equality in Japan*, Routledge: London and NY.
2021. 6 (分担執筆)「第 4 章5. グローバルエシックスの模索」(pp. 68-69)、「第 4 章 6. 生命倫理と医療倫理・臨床倫理」(pp. 70-71)、「第 5 章5. 配偶子・胚の資源化と社会的影響」(pp. 82-83)、松島哲久、宮島光志編著『薬学生のための医療倫理 新版 コアカリ対応』丸善株式会社

《書評》

2022. 3 Sarah Ferber, Nicola J. Marks, and Vera Mackie, IVF and Assisted Reproduction: *Global History: East Asian Science, Technology and Society: An International Journal*, 16(1), pp.148 -150.

《学会報告・講演》

- 2022 オンライン国内学会: 第 27 回日本臨床エンブリオロジスト学会 学術大会特別講演「商業的精子バンクの現状と課題倫理的側面、ジェンダー的側面、社会的側面から」(招聘講演)(2022 年 1 月 9 日)横浜大さん橋会議場
- 2021 オンライン国内学会: 日本医学哲学・倫理学会第 40 回年次大会シンポジウム講演「諸外国の出自を知る権利を保障する法制度」『出自を知る権利をめぐるこれまでの議論の経緯と今後の課題』(招聘講演)(2021 年 11 月 6 日)横浜市立大学オンライン
- 2021 オンライン国際学会: Society for Social Studies of Science (4S) The 4S 2021 preliminary conference のワークショップ 434. Assisted Reproductive Technology and Third Party Reproduction in East Asia: Japan and Taiwan での報告: 報告タイトル“Family members as gamete donors in Japan”(査読有)(2021 年 10 月 9 日)カナダ・トロント

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:18K00034)「諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究」、2018 年~2021 年度、研究代表者



特任講師 平野 恵子

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース

専門分野: 国際社会学、ジェンダー研究、インドネシア地域研究

所属学会等

International Association for Feminist Economics

日本社会学会

国際ジェンダー学会(理事・評議員)

日本フェミニスト経済学会(幹事)

アジア政経学会

東南アジア学会

移民政策学会

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「国際労働力移動のジェンダー分析」(19 頁参照) / 「移民受入れ国—送出国の政策相互連関——国際社会学からの比較研究」(19 頁参照) / 「再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯」(20 頁参照) / 「インドネシア人帰還移民の再統合における労働経験の意味: 移住先での労働者層別分析」(20 頁参照)
- ・ IGS セミナー「ジェンダー、エスニシティ、技能実習制度」企画・コーディネーター・司会(47 頁参照) / 「移住労働者の子どもたち」企画・コーディネーター・司会(54 頁参照) / 「教育とジェンダー、世界と日本」企画・コーディネーター・司会(58 頁参照) / 「国際協力とジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチ」企画・コーディネーター・司会(60 頁参照)
- ・ IGS 国際シンポジウム「#MeToo の政治学」運営担当(32 頁参照)
- ・ お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構主催国際シンポジウム「グローバル女性リーダーシップ: アジアからの提言」における「IGS-AIT 交流事業: AIT ワークショップ」成果報告(38 頁参照)
- ・ 担当セミナーのウェブサイト用報告書(各日本語・英語)の監修
- ・ 『ジェンダー研究』編集スタッフ(106~109 頁参照)。主に特集、一般投稿論文担当。ほか『ジェンダー研究』編集刊行業務全般の統括。
- ・ 海外からの問合せ対応

主な業績

《著書・論文》

2021 「COVID-19 パンデミック下のインドネシアにおける家事労働者への社会経済的影響」『国際ジェンダー学会誌』第 19 号: 32-53(査読有)

2022 「有償家事労働の位相から「家政」を考える」『現代思想』青土社, 50(2): 79-88.(招待有)

《学会報告・講演》

2022 報告: 「SDGs(持続可能な開発目標)をジェンダー視点からクリティカルに考えてみることをテーマにした読書会」、国際ジェンダー学会「開発とジェンダー」分科会、2022 年 3 月 29 日

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:21K12395)「インドネシア人帰還移民の再統合における労働経験の意味: 移住先での労働者層別分析」、2021~2023 年度、研究分担者
- ・ 科学研究費基盤研究 A(課題番号:19H00607)「移民受入れ国—送出国の政策相互連関——国際社会学からの比較研究」、2019~2021 年度(研究代表者:小井土彰宏・一橋大学)、研究分担者
- ・ 科学研究費基盤研究 B(課題番号:19H01578)「再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯」、2019~2021 年度(研究代表者:定松文・恵泉女学園大学)、研究分担者



学内研究員 棚橋 訓

基幹研究院人間科学系・教授

文教育学部人間社会科学科社会学コース

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻・専攻長

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

専門分野: 文化人類学、オセアニア地域研究、ジェンダー文化論、
セクシュアリティ研究

主な担当業務: ジェンダー研究所運営会議メンバー



学内研究員 小玉 亮子

基幹研究院人間科学系・教授

文教育学部人間社会科学科子ども学コース

博士前期課程人間発達科学専攻保育・児童学コース

博士後期課程人間発達科学専攻保育・児童学領域

専門分野: 子ども社会学、教育学

主な担当業務: ジェンダー研究所運営会議メンバー

国際共同プロジェクト INTPART



学内研究員 斎藤 悦子

基幹研究院人間科学系・教授

生活科学部人間生活学科・生活社会科学講座

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

専門分野: 生活経済学、生活経営学、企業文化論

主な担当業務: ジェンダー研究所運営会議メンバー



学内研究員 石丸 径一郎

基幹研究院人間科学系・准教授

生活科学部心理学科

博士前期課程人間発達科学専攻発達臨床心理学コース

博士後期課程人間発達科学専攻発達臨床心理学領域

専門分野: ジェンダー心理学、認知行動療法

主な担当業務: ジェンダー研究所運営会議メンバー

『ジェンダー研究』編集委員

国際共同プロジェクト INTPART



客員研究員 足立 真理子

(本学名誉教授)

委嘱期間:2021年4月1日~2022年3月31日

研究プロジェクトタイトル

新興アジアにおけるIT-BPOの国際分業の成立とジェンダー(科学研究費基盤研究B 課題番号:20H01468)

資本と身体ジェンダー分析:資本機能の変化と『放逐』される人々



研究協力員 板井 広明

(専修大学経済学部准教授)

委嘱期間:2021年4月1日~2022年3月31日

研究プロジェクトタイトル

資本と身体ジェンダー分析:資本機能の変化と『放逐』される人々



研究協力員 佐野 潤子

(慶応義塾大学ファイナンシャル・ジェロントロジー研究センター特任講師)

委嘱期間:2021年4月1日~2022年3月31日

研究プロジェクトタイトル

国際共同プロジェクト INTPART

「家庭科教育とジェンダー平等」国際比較研究

女性の金融行動とジェンダー



リサーチ・アドミニストレーター* 吉原 公美

主担当業務:ジェンダー研究所事務局統括

- ・ジェンダー研究所全体予算管理
- ・国際共同プロジェクト INTPART ファシリテーター
- ・ジェンダー研究所(IGS)特別招聘教授招聘事務および業務活動支援
- ・グローバルリーダーシップ研究所(IGL)特別招聘教授招聘事務
- ・IGS・IGL 合同シンポジウム準備委員会
- ・各種報告書・報告データ作成
- ・国際シンポジウム等運営 ほか

*4~9月はIGS特任リサーチフェロー、10月より現職



アカデミック・アシスタント 稲垣 明子

主担当業務: シンポジウム等運営関連

- ・ AIT ワークショップ事務
- ・ 研究所事業事務(大学本部各種調査対応含む)
- ・ 会計事務
- ・ IGS 史料電子化作業
- ・ 書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 梅田 由紀子

主担当業務: 文献収集・資料整理・附属図書館収蔵資料管理関連

- ・ IGS 史料電子化プロジェクト電子化作業管理
- ・ 研究所事業事務
- ・ シンポジウム等運営事務
- ・ 会計事務
- ・ 書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 関根 里奈子

主担当業務: 広報・情報機器管理

- ・ ウェブサイト・SNS・メーリングリスト等による情報発信・広報
- ・ シンポジウム・セミナー・研究会ポスター作成
- ・ オンラインイベント開催時の Zoom Webinar ホスト担当
- ・ 情報機器・ネットワーク管理 IGS ウェブサイト運営技術担当、情報更新作業 ほか



アカデミック・アシスタント 滝 美香

主担当業務: 会計事務関連

- ・ 研究所事業事務
- ・ シンポジウム等運営事務
- ・ IGS 史料電子化作業
- ・ 書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 和田 容子

主担当業務: 成果発信関連

- ・ 年次事業報告書編集
- ・ 『ジェンダー研究』編集員
- ・ 成果発信日本語原稿校閲
- ・ IGS 史料電子化プロジェクトメタデータ構築企画立案・IGS イベントテーマ領域分類
- ・ 研究所事業事務補佐 ほか

【資料】②2021 年度研究プロジェクト一覧

1) IGS 研究プロジェクト

プロジェクト名	担当
「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究	申
東アジアの越境的女性運動	大橋
資本と身体ジェンダー分析	大橋・足立・板井
生殖医療とジェンダー	仙波
国際労働力移動のジェンダー分析	平野

2) 外部資金による研究プロジェクト

プロジェクト名称	期間(年度)	担当
科学研究費基盤研究 C (課題番号:19K12604) ジェンダークオータの政治学:制度化と抵抗	2019~2022	申
科学研究費基盤研究 C (課題番号:19K12603) 香港における移住女性の再生産労働力配置:「グローバル・シティ」のジェンダー分析	2019~2021	大橋
科学研究費基盤研究 C (課題番号:18K00034) 諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究	2018~2021	仙波
科学研究費基盤研究 A(課題番号:19H00607) 移民受入れ国-送出国の政策相互連関:国際社会学からの比較研究	2019~2021	平野 (分担者)
科学研究費基盤研究 B(課題番号:18H00817) 女性の政治参画の障壁:国会議員・県連への郵送・ヒアリング調査	2018~2022	申 (分担者)
科学研究費基盤研究 B (課題番号:19H01578) 再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯	2019~2021	大橋 平野 (分担者)
科学研究費基盤研究 B (課題番号:20H01468) 新興アジアにおける IT-BPO の国際分業の成立とジェンダー	2020~2022	大橋 足立 (分担者)
科学研究費基盤研究 C (課題番号:21K12395) インドネシア人帰還移民の再統合における労働経験の意味:移住先での労働者層別分析	2021~2023	平野 (分担者)
科研費国際共同研究加速基金(国際共同研究強化 B) (課題番号:21KK0033) 人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー	2021~2024	大橋 (分担者)

3) 海外の助成金によるプロジェクト

- ① ノルウェーリサーチカウンスル INTPART (戸谷・小玉・仙波・吉原・佐野) 2019~2022 年度
- ② ノルウェー高等教育国際連携推進機関 Diku の UTFORSK (戸谷・吉原) 2021 年 8 月~2025 年 7 月
- ③ デンマーク教育研究庁 (Uddannelses- og Forskningsstyrelsen) の助成プロジェクト: Reconceiving Donor Conception in Denmark and Japan (仙波) 2022 年 3 月~2023 年 12 月
- ④ Konrad Adenauer Foundation (Konrad Adenauer Stiftung) の支援によるアジア 10 カ国共同研究 Substantive Representation of Women Parliamentarians and Gender Equality in Asia: A Comparative Study (申) 2021 年 2 月~2022 年 7 月

【資料】③協力研究者一覧

氏名・所属	協力事業*	参照
【海外】		
アヴィヤンティ・アジス (Avyanthi Azis) インドネシア大学・インドネシア	(セ)ジェンダー、エスニシティ、技能実習制度	47 頁
スティン・W・エイドリアン (Stine W. Adrian) オーホルボー大学・デンマーク	(セ) 商業的精子バンクに関する問題: 倫理・ジェンダー・社会的側面から	41 頁
ジャン・バーズレイ (Jan Bardsley) ノースカロライナ大学チャペルヒル校・米	(シ) グローバル女性リーダーシップ: アジアからの提言 『ジェンダー研究』編集委員	38 頁 106 頁
ジェニファー・ブロンラ (Jennifer Branlat) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED) (国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan (連) INTPART プロジェクト	86 頁 87 頁 91 頁
ロージー・キャンベル (Rosie Campbell) キングス・カレッジ・ロンドン・英	(シ) リーダーシップの地平: ジェンダー平等推進のための理論と実践	35 頁
趙成南 (チョ・ソンナム) (Cho Sung-Nam) 梨花女子大学校・韓国	(シ) グローバル女性リーダーシップ: アジアからの提言	38 頁
ケン・ダニエルズ (Ken Daniels) カンタベリー大学・ニュージーランド	(セ) 出自を知ることがなぜ重要なのか: 提供精子で生まれた人たちの経験と問い	49 頁
本田桂子 (Keiko Honda) コロンビア大学・米	(シ) グローバル女性リーダーシップ: アジアからの提言	38 頁
ルセッタ・Y・L・カム (Lucetta Y. L. Kam) 香港浸會大学・中国	(セ) 宝塚というランドスケープとジェンダー: ファンダムの文化的・地理的越境とその可能性	62 頁
グロ・コースニス・クリステンセン (Guro Korsenes Kristensen) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(シ) グローバル女性リーダーシップ: アジアからの提言 (国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED) (国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan (連) INTPART プロジェクト	38 頁 86 頁 87 頁 91 頁
日下部京子 (Kyoko Kusakabe) アジア工科大学院大学・タイ	(シ) グローバル女性リーダーシップ: アジアからの提言 (連) AIT ワークショップ	38 頁 89 頁
権金炫伶 (クォン・キム・ヒョニョン) (Hyunyoung Kwonkim) 女性現実研究所・韓国	(シ) #MeToo の政治学: #MeToo が残したフェミニズムの課題を考える	32 頁
カースティン・マックロード (Kirsten MacLeod) エディンバラ・ネピア大学・英	(セ) 生理の貧困	45 頁
コリーナ・リアントプトラ (Corina Riantoputra) インドネシア大学・インドネシア	(シ) グローバル女性リーダーシップ: アジアからの提言	38 頁

氏名・所属	協力事業*	参照
【海外】		
プリシラ・リングローズ (Priscilla Ringrose) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	86 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	87 頁
	(連) INTPART プロジェクト	91 頁
ルイン (Ruin) トランスジェンダー・ケア研究所・韓国	(シ) #MeToo の政治学: #MeToo が残したフェミニズムの課題を考 える	32 頁
カレン・アン・シャイア (Karen Ann Shire) デュースブルグ・エッセン大学・独	(シ) グローバル女性リーダーシップ: アジアからの提言	38 頁
	『ジェンダー研究』編集委員	106 頁
シリ・エイスレボ・ソレンセン (Siri Øyslebø Sørensen) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	86 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	87 頁
	(連) INTPART プロジェクト	91 頁
【国内】		
足立加勇 (Kayu Adachi) 東京造形大学ほか	(セ) 戦争と美少女: エンターテインメントとしての戦いの表象	52 頁
ワオデ・ハニファー・イスティコマー (Waode Hanifah Istiqomah) 一橋大学大学院博士後期課程	(セ) ジェンダー、エスニシティ、技能実習制度	47 頁
大木直子 (Naoko Oki) 椋山女学園大学	(シ) リーダーシップの地平: ジェンダー平等推進のための理論と 実践	35 頁
小ヶ谷千穂 (Chiho Ogaya) フェリス女学院大学	(セ) 移住労働者の子どもたち	54 頁
香川檀 (Mayumi Kagawa) 武蔵大学	(シ) ジェンダーの視点に基づく美術史研究の現在	29 頁
金井 郁 (Kaoru Kanai) 埼玉大学	『ジェンダー研究』編集委員	106 頁
菊地夏野 (Natsuno Kikuchi) 名古屋市立大学	(シ) #MeToo の政治学: #MeToo が残したフェミニズムの課題を考 える	32 頁
北原恵 (Megumi Kitahara) 大阪大学	(シ) ジェンダーの視点に基づく美術史研究の現在	29 頁
	『ジェンダー研究』編集委員	106 頁
吉良智子 (Tomoko Kira) 日本女子大学	(シ) ジェンダーの視点に基づく美術史研究の現在	29 頁
レティツィア・グアリーニ (Letizia guarini) 国際基督教大学	(セ) 日本文学における父娘関係: 欲望・暴力・支配・抵抗	43 頁
巢内尚子 (Suani Naoko) 東京学芸大学 / ラバル大学大学 院博士後期課程・カナダ	(セ) ジェンダー、エスニシティ、技能実習制度	47 頁

氏名・所属	協力事業*	参照
【国内】		
高畑幸 (Sachi Takahata) 静岡県立大学	(セ) 移住労働者の子どもたち	54 頁
田中由美子 (Yumiko Tanaka) 城西国際大学	(セ) 国際協力とジェンダー・トランスフォーメティブ・アプローチ	60 頁
張璋容 (Wei-Jung Chang) 同志社女子大学	(セ) 宝塚というランドスケープとジェンダー:ファンダムの文化的・地理的越境とその可能性	62 頁
中嶋泉 (Izumi Nakajima) 大阪大学	(シ) ジェンダーの視点に基づく美術史研究の現在	29 頁
長島美紀 (Miki Nagashima) プラン・インターナショナル・ジャパン	(セ) 生理の貧困	45 頁
英美由紀 (Miyuki Hanabusa) 藤女子大学	(セ) 『ルッキズム』: 女性美をめぐる理論と表象から	64 頁
三浦まり (Mari Miura) 上智大学	『ジェンダー研究』編集委員	106 頁
由井秀樹 (Hideki Yui) 山梨大学	(セ) 不妊と男性のセクシュアリティ	56 頁
【学内】		
佐々木泰子 (Yasuko Sasaki) 学長	(シ) グローバル女性リーダーシップ: アジアからの提言	38 頁
石井クンツ昌子 (Masako Ishii-Kuntz) 理事・副学長・グローバル女性リーダー育成研究機構	(シ) リーダーシップの地平: ジェンダー平等推進のための理論と実践	35 頁
	(シ) グローバル女性リーダーシップ: アジアからの提言	38 頁
	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	86 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	87 頁
	(連) INTPART プロジェクト	91 頁
小林誠 (Makoto Kobayashi) 基幹研究院人間科学系・グローバルリーダーシップ研究所	(シ) リーダーシップの地平: ジェンダー平等推進のための理論と実践	35 頁
	(シ) グローバル女性リーダーシップ: アジアからの提言	38 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	87 頁
天野知香 (Chika Amano) 基幹研究院人文科学系	(シ) ジェンダーの視点に基づく美術史研究の現在	29 頁
	『ジェンダー研究』編集委員	106 頁
水野勲 (Chika Amano) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	106 頁
森義仁 (Yoshihito Mori) 基幹研究院自然・応用科学系	『ジェンダー研究』編集委員	106 頁
倉光ミナ子 (Minako Kuramitsu) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	106 頁

氏名・所属	協力事業*	参照
【学内】		
石丸径一郎 (Keiichiro Ishimaru) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	106 頁
本林響子 (Motobayashi Kyoko) グローバルリーダーシップ研究所	(シ)グローバル女性リーダーシップ:アジアからの提言	38 頁
松田デレク (Derek Matsuda) 国際教育センター	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	86 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	87 頁
	(連) INTPART プロジェクト	91 頁
脇田彩 (Aya Wakita) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	106 頁
キャロル マイルズ (Myles Carroll) 基幹研究院人間科学系	(シ)リーダーシップの地平:ジェンダー平等推進のための理論と実践	35 頁
宝月理恵 (Rie Hogetsu) グローバルリーダーシップ研究所	(シ)グローバル女性リーダーシップ:アジアからの提言	38 頁
岡村利恵 (Rie Okamura) グローバルリーダーシップ研究所	(シ)グローバル女性リーダーシップ:アジアからの提言	38 頁
内藤章江 (Akie Naitoh) グローバルリーダーシップ研究所	(シ)グローバル女性リーダーシップ:アジアからの提言	38 頁
菊地優美 (Yumi Kikuchi) 基幹研究院リサーチフェロー/ 日本大学ほか	(セ)日本文学における父娘関係:欲望・暴力・支配・抵抗	43 頁
竹家一美 (Kazumi Takeie) 非常勤講師	(セ)不妊と男性のセクシュアリティ	56 頁
ズザンナ・バラニャク平田 (Zuzanna Baraniak-Hirata) 博士後期課程	(セ)宝塚というランドスケープとジェンダー:ファンダムの文化的・地理的越境とその可能性	62 頁

* (シ) シンポジウム、(セ) セミナー・国際フォーラム、(国) 国際共同研究プロジェクト、(連) 国際ネットワーク

【資料】④シンポジウム・セミナー一覧

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催シンポジウム		
12/18	<p>シンポジウム ジェンダーの視点に基づく美術史研究の現在</p> <p>【司会】天野知香(お茶の水女子大学教授)</p> <p>【パネリスト】吉良智子(日本女子大学学術研究員) 中嶋泉(大阪大学准教授) 天野知香(お茶の水女子大学教授) 北原恵(大阪大学名誉教授)</p> <p>【ディスカッサント】香川檀(武蔵大学教授)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所</p> <p>【協力】イメージ&ジェンダー研究会</p> <p>【言語】日本語</p> <p>【参加者数】208 名</p>	29 頁
IGS 主催国際シンポジウム		
1/21	<p>国際シンポジウム #MeToo の政治学: #MeToo が残したフェミニズムの課題を考える</p> <p>【司会】申琪榮(IGS 教授)</p> <p>第 1 部 ドキュメンタリー映画『アフターMeToo』監督とのトーク</p> <p>【パネリスト】カンユ・カラム(監督) 濱田真里(ジェンダー総合研究所共同代表) 金李イスル(翻訳家)</p> <p>第 2 部 国際シンポジウム『#MeToo の政治学』</p> <p>【パネリスト】権金炫恰(女性現実研究所代表) ルイン(トランスジェンダー・クィア研究所専任研究員) 菊地夏野(名古屋市立大学准教授)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所/日本学術振興会基盤研究(C)『ジェンダークオータの政治学: 制度化と抵抗』</p> <p>【言語】日韓(同時通訳)</p> <p>【参加者数】329 名</p>	32 頁
グローバル女性リーダー育成研究機構主催 国際シンポジウム		
11/15	<p>国際シンポジウム[シリーズ: アジアにおける女性リーダーシップを考える 1] リーダーシップの地平: ジェンダー平等推進のための理論と実践</p> <p>Leadership for All: Theory and Action to Foster Gender Equality</p> <p>【基調講演】ロージー・キャンベル(キングス・カレッジ・ロンドン教授/女性リーダーシップグローバル研究所長)</p> <p>【ディスカッサント】キャロル マイルズ(お茶の水女子大学助教/IGL 研究員) 大木直子(椋山女学園大学講師、IGL 客員研究員) 申琪榮(お茶の水女子大学 IGS 教授)</p> <p>【パネルディスカッションモデレーター】小林誠(お茶の水女子大学教授/IGL 所長)</p> <p>【司会】戸谷陽子(お茶の水女子大学教授/IGS 所長)</p> <p>【趣旨説明】石井クンツ昌子(お茶の水女子大学理事・副学長/グローバル女性リーダー育成研究機構長)</p> <p>【主催】お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構 [グローバルリーダーシップ研究所(IGL)、ジェンダー研究所(IGS)]</p> <p>【言語】日英(同時通訳)</p> <p>【参加者数】167 名</p>	35 頁

開催日	イベント詳細	参照
グローバル女性リーダー育成研究機構主催 国際シンポジウム		
2/18	<p>国際シンポジウム[シリーズ:アジアにおける女性リーダーシップを考える4] グローバル女性リーダーシップ:アジアからの提言 Global Women's Leadership: Proposals from Asia 【開会挨拶・趣旨説明】 佐々木泰子(お茶の水女子大学長) 第1部 実践編:決断し、行動する[本学および附属学校園卒の女性リーダーたちによる講演会] 【講演】 本田桂子(コロンビア大学 Adjunct Professor、元世界銀行グループ多数国間投資保証機関長官兼 CEO)[お茶の水女子大学卒業生] 【ビデオメッセージ】 山崎直子(宇宙飛行士)[お茶の水女子大学附属高等学校卒業生] 【第1部司会】 宝月理恵(IGL 特任講師) 第2部 成果編:探究し、発信する[2015年度からのグローバル女性リーダー育成研究機構(IGL・IGS)の成果報告] 【第2部趣旨説明】 石井クツ昌子(お茶の水女子大学理事・副学長/グローバル女性リーダー育成研究機構長) 【報告:IGL】 小林誠(お茶の水女子大学教授/IGL 所長) 岡村利恵(IGL 特任講師) 内藤章江(IGL 特任講師) 【報告:IGS】 戸谷陽子(お茶の水女子大学教授/IGS 所長) 申琪榮(IGS 教授) 仙波由加里(IGS 特任講師) 平野恵子(IGS 特任講師) 【第2部進行役】 本林響子(IGL 副所長・准教授) 第3部 研究編:見極め、捉え直す[IGL・IGS の特別招聘教授・連携研究者を交えての討論] 【基調講演】 趙成南(梨花女子大学校名譽教授)[2020~2021年度 IGL 特別招聘教授] 日下部京子(アジア工科大学院大学教授)[IGS 連携研究者] 【ディスカッサント】 コリーナ・リアントプトラ(インドネシア大学准教授)[2021年度 IGL 特別招聘教授] グロ・クリステンセン(ノルウェー科学技術大学教授)[IGS 連携研究者] カレン・シャイア(デュースブルグ・エッセン大学教授)[2016~2018年度 IGL 特別招聘教授] ジャン・パーズレイ(ノースカロライナ大学チャペルヒル校名譽教授)[2018~2019年度 IGS 特別招聘教授] 【第3部司会】 石井クツ昌子(お茶の水女子大学理事・副学長/グローバル女性リーダー育成研究機構長) 【閉会挨拶】 戸谷陽子(お茶の水女子大学教授/IGS 所長) 【主催】 お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構 [グローバルリーダーシップ研究所(IGL)、ジェンダー研究所(IGS)] 【言語】 日英(同時通訳) 【参加者数】 137名</p>	38 頁
IGS 主催 IGS セミナー		
7/2	<p>生殖領域シリーズ 商業的精子バンクに関する問題:倫理・ジェンダー・社会的側面から Issues Regarding Commercial Sperm Banks from the Ethical, Gender and Social Perspectives 【司会】 仙波由加里(IGS 特任講師) 【講演】 スティン・W・エイドリアン(オールボー大学准教授) 【主催】 ジェンダー研究所 【言語】 英語(日本語逐次通訳) 【参加者数】 138名</p>	41 頁

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 IGS セミナー		
7/8	日本文学における父娘関係:欲望・暴力・支配・抵抗 【司会】戸谷陽子(お茶の水女子大学教授/IGS 所長) 【研究報告】レティツィア・グアリーニ(国際基督教大学ジェンダー研究センター助教) 菊地優美(お茶の水女子大学基幹研究院リサーチフェロー/日本大学他非常勤講師) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】日本語 【参加者数】64 名	43 頁
7/16	生殖領域シリーズ 生理の貧困 Period Poverty 【司会】仙波由加里(IGS 特任講師) 【講演】カースティン・マックロード(エディンバラ・ネピア大学准教授) 長島美紀(プラン・インターナショナル・ジャパン 研究者) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】英語(日本語逐次通訳) 【参加者数】154 名	45 頁
7/23	ジェンダー、エスニシティ、技能実習制度 Gender, Ethnicity, Technical Intern Training Program 【司会】平野恵子(IGS 特任講師) 【講師】巢内尚子(ラバル大学大学院博士後期課程/東京学芸大学特任講師) ワオデ・ハニファー・イスティコマー(一橋大学大学院博士後期課程) 【ディスカッサント】アヴィヤンティ・アジス(インドネシア大学講師) 【主催】ジェンダー研究所 【共催】科研費・基盤 B「再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯」(19H01578) 【言語】日英(同時通訳) 【参加者数】117 名	47 頁
8/29	国際フォーラム[生殖領域シリーズ] 出自を知ることがなぜ重要なのか:提供精子で生まれた人たちの経験と Why Is the Right to Know Important? The Experiences and Thoughts of Donor-conceived People 【司会】仙波由加里(IGS 特任講師) 【講演】ダミアン・アダムス(オーストラリアの AID 出生者) リーン・バスチアンセン(ベルギーの AID 出生者) 加藤英明(日本の AID 出生者) 石塚幸子(日本の AID 出生者) 【ディスカッサント】ケン・ダニエルズ(カンタベリー大学、ソーシャルワーカー) 【主催】ジェンダー研究所 【共催】科研費・基盤 C「諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究」 【言語】日英(同時通訳) 【参加者数】187 名	49 頁
10/22	戦争と美少女:エンターテインメントとしての戦いの表象 【司会】大橋史恵(IGS 准教授) 【講演】足立加勇(東京造形大学・立教大学講師) 【ディスカッサント】関根里奈子(大正大学他講師/一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程/IGS アカデミック・アシスタント) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】日本語 【参加者数】90 名	52 頁

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 IGS セミナー		
10/30	<p>移住労働者の子どもたち Children of Migrant Workers</p> <p>【司会】平野恵子(IGS 特任講師)</p> <p>【講師】ヨガ・プラスティヨ(移住労働研究者、フリーランス通訳・翻訳者) 小ヶ谷千穂(フェリス女学院大学教授)</p> <p>【ディスカッサント】高畑幸(静岡県立大学教授)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所</p> <p>【言語】日英(同時通訳)</p> <p>【参加者数】63名</p>	54 頁
11/26	<p>生殖領域シリーズ 不妊と男性のセクシュアリティ</p> <p>【司会】仙波由加里(IGS 特任講師)</p> <p>【講演】由井秀樹(山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座 特任助教) 竹家一美(お茶の水女子大学他 非常勤講師)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所</p> <p>【言語】日本語</p> <p>【参加者数】109名</p>	56 頁
12/1	<p>学内限定セミナー 教育とジェンダー、世界と日本:2030年にむけて今日の課題</p> <p>【司会】平野恵子(IGS 特任講師)</p> <p>【講演】菅野琴(元ユネスコネパール事務所長・ユネスコ代表)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所</p> <p>【言語】日本語</p> <p>【参加者数】16名</p>	58 頁
12/15	<p>国際協力とジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチ</p> <p>【司会】平野恵子(IGS 特任講師)</p> <p>【講演】田中由美子(城西国際大学招聘教授・国連女性の地位委員会(CSW)日本代表)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所</p> <p>【言語】日本語</p> <p>【参加者数】47名</p>	60 頁
2/24	<p>宝塚というランドスケープとジェンダー:ファンダムの文化的・地理的越境とその可能性 Takarazuka as Gendered Landscapes:Transculturality/Translocality of Fandom and its Possibilities</p> <p>【司会】大橋史恵(IGS 准教授)</p> <p>【講演】ルセッタ Y・L・カム(香港浸會大学准教授) ズザンナ・バラニャク平田(お茶の水女子大学大学院博士後期課程)</p> <p>【ディスカッサント】張瑋容(同志社女子大学助教)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所</p> <p>【言語】日英(同時通訳)</p> <p>【参加者数】132名</p>	62 頁
3/22	<p>『ルッキズム』:女性美をめぐる理論と表象から</p> <p>【司会】戸谷陽子(お茶の水女子大学教授/IGS 所長)</p> <p>【報告】英美由紀(藤女子大学教授)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所</p> <p>【言語】日本語</p> <p>【参加者数】66名</p>	64 頁

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 IGS 研究会		
3/24	<p>IGS 研究協力員研究報告会</p> <p>【司会】 仙波由加里 (IGS 特任講師)</p> <p>【挨拶・コメント】 戸谷陽子 (IGS 所長／お茶の水女子大学教授)</p> <p>【報告】 板井広明 (専修大学准教授／IGS 研究協力員) 佐野潤子 (慶応義塾大学特任講師／IGS 研究協力員)</p> <p>【主催】 ジェンダー研究所</p> <p>【言語】 日本語</p> <p>【参加者数】17 名</p>	66 頁
IGS 後援		
9/18	<p>日本フェミニスト経済学会 2021 年度大会</p> <p>共通論題「コロナ災害があらわにした女性のいのちとくらしの課題」</p> <p>【座長】 中原朝子 (神戸大学)</p> <p>【トークセッション】 雨宮処凛 (作家・活動家)／伊田久美子 (大阪府立大学名誉教授)</p> <p>【報告】 Carlos, Maria Reinaruth Desiderio (龍谷大学)／湯澤直美 (立教大学)／大沢真理 (東京大学名誉教授)</p> <p>【コメント】 丸山里美 (京都大学)／三山雅子 (同志社大学)</p> <p>【司会】 小ヶ谷千穂 (フェリス学院大学)／中原朝子 (神戸大学)</p> <p>【後援】 ジェンダー研究所／早稲田大学ジェンダー研究所／早稲田大学平和学研究所</p>	68 頁

【資料】⑤2021 年度新規収蔵図書・資料

・2021 年度、寄贈により以下の書籍が新規収蔵された。〔寄贈者名『書名』(著者名)〕(敬称略)

大月書店『#MeToo の政治学』(金炫怜[著]), 鄭喜鎮[著編], 桐峯昀[著], ルイン[著], 申琪榮[監修], 金李イスル[翻訳]／亀口まか『河口嗣郎の男女平等思想 近代日本の婦人問題論とジェンダー』(亀口まか) 小金井女性史を作る会『小金井の女性たち : 時代を歩む : 聞き書き集』(小金井女性史を作る会[編])／NPO 法人フォトボイス・プロジェクト『被災した女性たちが提示する防災・復興の課題 : 東日本大震災のフォトボイス』(フォトボイス・プロジェクト編)／中西直樹『仏教婦人雑誌の創刊』(岩田真美, 中西直樹)／晃洋書房『フェミニズムはもういない、と彼女は言うけれど』(高橋幸)／仙波由加里『薬学生のための医療倫理』(松島哲久・宮島光志編)

・2021 年度、寄贈、購入によりジェンダー研究所から以下の書籍が新規収蔵された。〔『書名』(著者名)〕

『Comparative Perspectives on Gender Equality in Japan and Norway』(Masako Ishii-Kuntz/Guro Korsnes Kristensen/Priscilla Ringrose)／『Gender, Culture, and Disaster in Post-3.11 Japan』(Mire Koikari)／『Home care fault lines : understanding tensions and creating alliances』(Cynthia J. Cranford)／『IGS 国際セミナー(生殖領域)報告書』IGS Project Series ;18(お茶の水女子大学ジェンダー研究所)／『アニメの社会学—アニメファンとアニメ制作者たちの文化産業論』(永田大輔[編])／『アンチ・アクション: 日本戦後絵画と女性画家』(中嶋泉)／『概説 ジェンダーと人権』(辻村みよ子/糖塚康江/谷田川知恵)／『〈家父長制〉は無敵じゃない: 日常からさぐるフェミニストの国際政治』シンシア・エンロー[著], 佐藤文香[監訳]／『韓国女性関係資料 韓末女性誌』(梨花女子大学 韓国女性研究所[編])／『ケアするのは誰か?: 新しい民主主義のかたちへ』(ジョアン・C・トロント[著]/岡野八代[訳・著])／『下田歌子と近代日本(実践女子大学下田歌子記念総合研究所 研究叢書第1巻)』(広井多鶴子[編著])／『社会再構築の挑戦: 地域・多様性・未来』(谷富夫/稲月正/高畑幸[編著])／『ジェンダー研究 第24号(通巻41号)』(お茶の水女子大学ジェンダー研究所)／『ジェンダー・選挙・女性の政治的代表性—2019年インドネシア総選挙に関する分析(東アジアにおけるジェンダーと政治 Booklet series ;3, IGS Project Series ;19)』(お茶の水女子大学ジェンダー研究所)／『ジェンダー分析で学ぶ 女性史入門』(総合女性史学会)／『女性画家たちの戦争』(吉良智子)／『女性たちの保守運動: 右傾化する日本社会のジェンダー』(鈴木彩加)／『女性の暮らしと生活意識データ集<2022>』(三冬社編集制作部)／『戦後女性教員史: 日教組婦人部の労働権確立運動と産休・育休の制度化過程』(跡部千慧)／『想起のかたち 記憶アートの歴史意識』(香川檀)／『男女共同参画社会データ集<2021>』(三冬社編集制作部)／『哲学者と皇太子妃: 冷戦期日本における自由と愛と民主主義: 国際シンポジウム = The philosopher and the Princess : freedom, love, and democracy in Cold War Japan : international symposium』IGS Project Series ;14(お茶の水女子大学ジェンダー研究所)／『はじめてのジェンダーと開発—現場の実体験から』(田中由美子ほか[編著])／『ハンナ・ヘーヒ: 透視のイメージ遊戯』(香川檀)／『被差別部落女性の主体性形成に関する研究』(熊本理沙)／『一人っ子政策と中国社会』(小浜正子)／『ひれふせ、女たち: ミソジニーの論理』(ケイト・マン[著], 小川芳範[訳])／『法制度における男性差別』(ポール・ナサンソン+キャサリン・K・ヤング)／『百合子とたか子』(岩本美砂子)

・2021 年度、寄贈、購入によりジェンダー研究所から以下の雑誌が新規収蔵された。〔『雑誌名』(発行者名)〕

『Asian women's liberation = アジアと女性解放』(アジアの女たちの会)／『HAND IN HAND』(円よりこ)／『月刊お母さん now(ナウ)= Women's culture magazine』(大空社)／『女のひろば』(名古屋市市民局広報相談部婦人問題担当室)／『ジェンダー法研究』(信山社)

【資料】⑥史料電子化プロジェクト：電子化イベント一覧

女性文化資料館(1975-1985)/女性文化研究センター(1986-1995)イベント一覧				
年度	活動区分	開催日	イベントタイトル	登壇者
1977 (S52)	講演会	1977/9/22	湯浅年子先生講演会	湯浅年子
	シンポジウム	1978/1/14	シンポジウム	
	研究会	1978/2/8	山川菊栄と女性解放思想(木下 研究会)	
	研究会	1978/3/6	社会学における家族	
	研究会	1978/3/22	山川菊栄研究	
1978 (S53)	研究会	1978/6/6	女性史研究会 欧米の女性論	
	研究会	1978/7/27	女性史研究会 欧米の女性論	
1979 (S54)	研究会	1979/5/24	女性の教育と女性問題	
	研究会	1979/10/4	アメリカ婦人労働の法的諸問題	
	シンポジウム	1980/1/26	総合科目「婦人問題」に関するシンポジウム	
	研究会	1980/2/12	中山みきの思想と歩み—陽気づくめの世界をめざして 50 年—	吉原敬子
		1980/3/1	杉田和子、小島栄子、岩本のり子 於: 中村屋	
1980 (S55)	研究会	1980/4/1	平安時代の相続制と女子相続権—『平安遺文』文書を中心として—	服藤早苗
	研究会	1980/4/23	〔マーガレット・ミードの女性研究Ⅰ〕	村松弘子ほか
	研究会	1980/5/29	〔マーガレット・ミードの女性研究Ⅱ〕	田中和子ほか
	研究会	1980/7/3	インドにおける女性の政治的役割	Chandra Mudaliar
	研究会	1980/10/18	〔コペンハーゲン婦人会議及び婦人差別撤廃条約について〕【婦人問題懇話会 講演会】	船橋邦子ほか
	研究会	1980/10/20	性役割とセクシズム	小林啓子
	研究会	1980/11/5	Feminist Literary Criticism からみた『砂の女』	Chigusa Kimura-Steven
	研究会	1980/12/25	目黒依子『女役割』について	田中和子ほか
	研究会	1981/2/12	アメリカの女性史	金子幸子ほか
研究会	1981/3/27	フランス社会史の動向と女性史	小島智恵	
1981 (S56)	研究会	1981/5/27	人類学者のみた個人的アメリカ女性史	Frederica de Laguna
	研究会	1981/5/29	Role's of Women's College	Frederica de Laguna
	研究会	1981/6/12	『性の署名』について(1)	内藤和美ほか
	研究会	1981/7/4	『性の署名』について(2)	平川和子
	研究会	1981/7/12	高群逸枝の婚姻・家族形態研究の意義について	関口裕子
	研究会	1981/9/9	カナダの女性学について	Patricia Morley ほか
	研究会	1981/10/16	家族・親族理論研究動向	田中真砂子
	研究会	1981/11/25	兼業農家女性の就労形態の変容—長野県諏訪地方の場合—	久保桂子
	研究会	1981/12/15	オーストラリアと日本の婦人運動／ニューージーランドの女性の地位について	Romanovsky Ulrike ほか
	研究会	1982/1/27	千葉県における廃娼運動—国防婦人会との関連において—	船橋邦子
研究会	1982/3/24	近現代日本の社会教育と婦人団体	木下 ユキエ	
1982	研究会	1982/4/23	女子大学の存在意義を考える—アメリカ・フランス・インド等の各国を見て—	広中和歌子

(S57)	研究会	1982/5/22	女性学研究会 井上輝子、目黒依子		
	研究会	1982/6/4	近世における女性と家族	林玲子ほか	
	研究会	1982/10/22	平安時代の養子制度について—日本家族の特質をテーマに—	William McCullough ほか	
	研究会	1982/11/24	バングラディッシュの女性について	武藤敦子	
	研究会	1982/12/13	Consort, mother, beloved, "Vamp"; the symbolic depiction of womanhood in Indian calendar art	Patricia Uberoi ほか	
	研究会	1983/1/24	出産の社会史—家族の近代化に関連して—	落合恵美子	
	研究会	1983/2/15	韓国の女性について	鄭金子ほか	
	研究会	1983/3/22	『巫女の文化』について—古代女性史の見直しのために—	倉塚暉子ほか	
1983	研究会	1983/5/30	ガブリエラ・ミストラルと『女性読本』について	田村さと子	
(S58)	研究会	1983/6/30	Japanese-German Marriage in Japan: a tentative approach	Irene Hardach-Pinke	
	研究会	1983/7/29	『性の深層』をめぐって—現代西ドイツの女性運動との関連で—	大沢三枝子	
	研究会	1983/9/26	『妻と夫の社会史』について	山本郁子ほか	
	研究会	1983/11/1	女性の側からジェンダーを考える	若井文恵ほか	
	研究会	1983/11/21	Intellectual Differences between Woman and Man "Inherited or Acquired?"	Virginia Mann ほか	
	研究会	1983/12/15	機械女工たちの近代	古庄正	
	研究会	1984/2/22	『婦女新聞』の出發	石崎昇子ほか	
	研究会	1983/3/13	フィリップ・アリエス研究—子ども・教育・女性—	波多野完治ほか	
1984	研究会	1984/4/24	日本の離婚調停に関する研究	Taimie Bryant	
(S59)	研究会	1984/5/15	『更級日記』作者の宗教的コンプレックス	高木きよ子	
	講演会	1984/5/31	お茶の水女子大学百年史刊行記念講演会	林太郎ほか	
	研究会	1984/6/20	キリスト教文化と女性	杉田弘子	
	研究会	1984/7/6	The Function of Libraries, Women' Centers, and "Women's Studies" in doing Feminist Research	Helen Wheeler ほか	
	研究会	1984/10/23	『私生子』概念の発生と消長—明治期を中心とする法制・歴史と実際の扱い—	田中弘子	
	研究会	1984/11/20	Woman and Nature	Susan Griffin ほか	
	研究会	1984/12/11	中国女性史研究—小野和子『中国女性史』を読んで—	加藤直子	
	研究会	1985/2/25	樋口一葉の文学—『十三夜』と『人形の家』の比較を中心に—	フランシスカ・フンチカ	
	研究会	1985/3/14	近世関東農村における女性労働者の存在形態—年季・日雇奉公人の分析から—	青木道子	
1985	研究会	1985/4/26	ユートピアと性	倉塚平	
(S60)	研究会	1985/5/29	西欧近代の結婚観—キルケゴールをめぐって—	野村明代	
	研究会	1985/6/12	清代において模範とされている女性について	Susan Mann	
	研究会	1985/6/13	食事が子供の身体と心に与えるもの		
	研究会	1985/7/4	韓国女性の政治的、社会的地位	白京男	
			1985/10/5	第三世界の女性たちと私たち—ナイロビ報告(日本婦人問題懇話会)	
	研究会	1985/10/28	『源氏物語』にみる婚姻と居住形態と相続—光源氏と紫の上と明石君をめぐる—視角—	木下ユキエ	
	研究会	1985/11/15	主婦とテレビ	香取淳子	
	シンポジウム	1985/11/27	産むことを考える	加藤シヅエほか	
	研究会	1985/12/18	イタリア女性解放思想の歴史と今日的な段階—19世紀末から現在に至る主要な事項—	Argnani Fausta	

	研究会	1986/1/16	スイスにおける女性史研究—論文集『女性』と『イティネラ』にみる女性史家の研究動向—	佐藤るみ子
	研究会	1986/3/3	「円地文子論—"自然な女"の周辺—」	宮内淳子
1986	研究会	1986/4/25	フランス現代女性思想の流れ—ボーヴォワール・クリスティヴァ・イリガライ	棚沢直子
(S61)	研究会	1986/6/24	日本文化における『悪女』	Valerie・L・Durham
	研究会	1986/10/3	航空史における女性の役割—ドイツ女性スポーツ史の視角から	Gertrud Pfister
	研究会	1986/11/20	韓国の家族について	徐炳淑
	研究会	1986/12/8	バングラディッシュの女性—女性政策の視点から—	Jowshan Ara Rahman (ほか)
	研究会	1987/1/14	中東世界の女性—イスラームの原理と実像	黒田美代子
	研究会	1987/3/3	マレーシアの女性	Goh Beng Lan
1987	研究会	1987/4/23	公民の妻/青年団における女子活動の設立	渡辺洋子(ほか)
(S62)	研究会	1987/5/15	Impact of Economics & Technological Change on Women	Tamara・Hareven
	研究会	1987/6/24	円地文子の描いた女性像	アイリーン・マイカルス・アダチ
	研究会	1987/7/14	家計構造の長期的変容	田窪純子
	研究会	1987/8/25	舞踊と語り……祖母の語りとその姿	江川まゆみ
	研究会	1987/10/26	ラテン・アメリカの女性像	三田千代子
	研究会	1987/11/25	和泉式部と仏教	小野美智子
	研究会	1987/12/16	タイ社会における女性の役割	小野沢・ニッタヤー
	研究会	1988/2/10	日本における転勤の問題とデュアル・キャリア・ファミリーについて	青木由紀
	研究会	1988/3/10	新しい家庭科をめざして	西谷洋子
	研究会	1988/3/10	家庭科における消費者教育	小関禮子
1988	研究会	1988/4/11	Income Generation of Women in Rural Bangladesh	Kohinoor Begum
(S63)	研究会	1988/5/26	South Asian Women: Challenges & Prospects	Urmila Phadnis
	研究会	1988/6/22	Some Implications of Women's Status in China	Beverly Y. B. Hong
	研究会	1988/7/8	性役割意識に関連する韓国人の価値観	金炳端
	研究会	1988/9/7	こどもの虐待と放置—小児科の全国調査から—	内藤和美
	研究会	1988/11/25	フェミニスト研究の軌跡—Stanley & Wise の『フェミニズム社会科学に向かって』が提起するもの—	矢野和江
	研究会	1989/2/21	アジアにおける女性と仕事	Noeleen Heyzer
	研究会	1989/3/7	日本のフェミニストの意識と alternative な生活スタイル	ゴー・ベン＝ラン
1989	研究会	1989/4/5	男女平等教育の実践に向けて	Peggy McIntosh
(H1)	研究会	1989/4/14	Education of Scientist who Happen to Be Women	Emily L. Wic
	研究会	1989/6/1	鎌倉期の乳父について—その存在形態と乳母との関連	秋山貴代子
	研究会	1989/6/12	Modernisation en Iran et Le Changement Socio-cultural de Role de la Femme	Nasrin F. Hakami
	研究会	1989/7/17	Problems of Homeless Children in India	Rajani Paranjipe
	合評会	1989/9/11	原ひろ子著『ヘアー・インディアンとその世界』について	田中真砂子
	研究会	1989/10/4	スペイン内戦下の女性たち	秋山充子
	研究会	1989/11/17	Women and / in Media	Ann Simonton
	シンポジウム	1989/12/13	お茶の水女子大学留学生懇談会	

	シンポジウム	1989/11/29 ,12/20,199 0/3/19	特定研究「女性のライフコースの多様化と女子大学の役割」	Peggy McIntosh
1990 (H2)	シンポジウム	1990/4/23, 24	『母性』をめぐる日独シンポジウム	館かおるほか
	研究会	1990/5/18	Systematic Planning for Women's in Development and Activities	Barbara Knudson
	研究会	1990/6/14	マレー農村社会における性役割—東南アジアの伝統とイスラム規範のはざまにて	花見槇子
	研究会	1990/6/26	Women's Mothering and Working Roles in Japan and the United States	Brenda Bankart
	研究会	1990/9/25	中央ユーラシア遊牧民の歴史にみる女性像	宮脇淳子
	研究会	1990/10/23	福沢諭吉の女性論	杉原名穂子
	研究会	1990/11/22	日本近代女性の自伝を読む	Ronald P. Loftus
	研究会	1990/12/5	精神的母性	Elisabeth Gössmann
	研究会	1991/3/13	女性の自然科学研究者の進路決定要因の研究について	ビヴァリー・ゲッツイ
1991 (H3)	研究会	1991/5/29	大正時代の『令女会』の歌曲—女学生の歌唱と女学生向け創作歌曲の一考察	坂本麻実子
	研究会	1991/6/10	An Anthropological Study of Gender Science in Japan & U.S.	Sharon Traweck
	研究会	1991/6/18	To a Safer Place	Dane Raphael
	研究会	1991/10/4	Woman's Movement in Comparative Perspective	Ilse Lenz
	研究会	1991/10/9	Women of the Tlingit Society in Historical Perspective	Frederica de Laguna
	研究会	1991/10/31	Confusionism and Modern Chinese Women's Family Life	黄育馥
	研究会	1991/11/15	フェミニズムの方法としてのメモリーワーク	Frigga Haug ほか
	研究会	1991/11/19	クリスティヴァ『女の時間』を読む	棚沢直子
	研究会	1991/12/19	The Situation of the Swedish Women Today	Malin Ronnblom
	研究会	1992/1/30	自治体における女性学	栗田千恵子
	研究会	1992/2/12	中国の少数民族における女性	劉耀荃
	研究会	1992/2/20	アメリカ女性学の現段階: 女性学の理論家と県空者養成システム	三宅義子
	研究会	1992/3/13	『女性と労働』日独シンポジウム	
1992 (H4)	研究会	1992/4/15	Women's Studies in Canada	Naomi Black
	研究会	1992/4/20	Sexuality and Reproduction in Women's Utopian Dystopian Literature	Blaine Martin
	研究会	1992/6/19	湯浅年子博士資料的研究の歩み	松田久子
	研究会	1992/6/22	ジェーン・アダムスの思想と行動	米澤正雄
	研究会	1992/7/20	女性と開発をめぐる諸問題	村松安子
	研究会	1992/10/26	沖縄における女性の就労と性役割分業観	国吉和子
	講座	1992/11/21 ,28,12/5	次世代育成力を考える	原ひろ子ほか
研究会	1993/1/28	南インド・ナガラッターールにおける親族・婚姻及び女性	西村祐子	
1993 (H5)	研究会	1993/5/18	中国における職業分化に伴う女性の価値観と行為方式の変化について	沙蓮香
	研究会	1993/6/24	女性と表彰—"模範嫁"表彰の聞き取り調査をめぐって—	熊澤知子
	研究会	1993/7/16	ベルリンの老人ホームとケア付き集合住宅	大澤真理
	研究会	1993/9/22	女性の自己表現と文学—野上彌生子におけるフェミニズムと形式—	藤田和美
研究会	1993/10/15	—政治学者のみたジェンダー研究—オリエンタリズムとの関連—	石田雄	

	特定研究懇談会	1993/11/13	Women in Higher Education—A case of the University of California USA—	Dr.Maresi Nerad
	研究会	1993/11/14	変容する男性社会—労働、ジェンダーの日独比較	高島道枝ほか
	研究会	1993/12/3	Gender,Justice and Therapy: Can One Be a Feminist and Practise Family Therapy?	Jan McDowell
	シンポジウム	1993/12/14,15	女性とメディア	
	シンポジウム	1994/1/20	特定研究「ライフコースの多様化の時代における大学教育と女性」	
1994 (H6)	研究会/シンポ	1994/4/7	エコロジーとフェミニズムを考える	Maria Mies ほか
	研究会	1994/6/1	オーストラリア女性史研究—女性史からフェミニスト史へ	Vera Mackie
	研究会	1994/7/27	いけ花と日本女性: 知の発達・地から・ジェンダー	飛田尚弥
	研究会	1994/8/29	Feminist Studies and Qualitative Empirical Methods: the Case of Sex Tourism and Traffic in Women	Ilse Lenz
	研究会	1994/9/27	Internationalization and Gender Relations: Theoretical Approaches	Ilse Lenz
	研究会	1994/10/31	家族法改正をめぐる文献とその論点	海妻径子
	シンポジウム	1994/11/2	学内共同教育研究プロジェクト・大学における女性学及び女性学研究センターの役割について	
	研究会	1995/1/27	How to combine Parenthood and Work?—Policies on Gender in Sweden—	Rita Liljestrum
	研究会	1995/2/21	Current Trends in Women's Studies in India: Gender,Development and Empowerment/	Malavika Karlekar ほか
	研究会	1995/3/1	Women, Education, and Development in Bangladesh	Saleha Begum
1995 (H7)	研究会	1995/4/13	日本の女性国会議員—その形成と構造	大海篤子
	研究会	1995/5/12	姉さん女房の社会学	Ursula Richter
	研究会	1995/6/16	女性と政治	Elic Plutzer
	研究会	1995/7/3	遺伝子とジェンダー	Joan Hideko Fujimura
	研究会	1995/9/18	アメリカのフェミニスト法理論の現在	Frances Olsen
	研究会	1995/10/13	社会主義フェミニズムの観点から見る『雁』	玉枝 Prindle
	研究会	1995/11/24	エコロジーとフェミニズム	山本良一
	シンポジウム	1995/12/2	湯浅年子メモリアルカンファレンス—エレヌ・ランジュヴェアン・ジョリオをむかえて	Hélène Langevin-Joliot
	研究会	1995/12/19	The place of women in Egyptian Society	Samia Khedr Saleh
	研究会	1996/2/14	ネパールにおける Management と WID の視点	福土恵理香
研究会/シンポ	1996/3/19	日本の学問研究とジェンダー	館かおる	

【資料】⑦国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所規則

(平成 27 年 3 月 25 日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構規則第4条第2項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所(以下「研究所」という。)に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 研究所は、グローバル女性リーダー育成研究機構に附属する研究所として、ジェンダーに関する総合的、国際的な研究及び調査を行うとともに、ジェンダー研究者の育成に資することを目的とする。

(研究及び業務)

第3条 研究所は、前条の目的を達成するため、次に掲げる研究及び業務を行う。

- (1) ジェンダーに関する国際的研究及び調査
- (2) ジェンダー研究に関する教育研修
- (3) ジェンダー研究に関する文献・資料の収集および整理
- (4) ジェンダー研究に関する情報の提供
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な業務

(組織)

第4条 研究所に、次に掲げる職員を置く。

- (1) 研究所長
- (2) 教員
- (3) 研究員
- (4) その他学長が必要と認めた職員

2 研究所に、次に掲げる職員を置くことができる。

- (1) 副研究所長
- (2) 特別招聘教授
- (3) 特任教員
- (4) 客員研究員
- (5) 研究協力員

(研究所長)

第5条 研究所長は、男女共同参画を担当する副学長並びに基幹研究院人文科学系、人間科学系及び自然科学系の系会議構成員(以下「系会議構成員」という。)である教授のうちから学長が任命する。

2 研究所長は、研究所の業務を掌理する。

3 研究所長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副研究所長)

第6条 副研究所長は、系会議構成員のうちから、研究所長が指名する。

2 副研究所長は、研究所長から指定された業務を掌理する。

3 副研究所長の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 副研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究員)

第7条 研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に従事する。

2 研究員は、基幹研究院に所属する教員のうちから、学長が任命する。

3 研究員の任期は2年とし、その終期が研究員となる日の属する年度の翌年度の末日を超えることとなる場合は、翌年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第8条 客員研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に参画する。

2 客員研究員は、本学専任の教員以外の者を、学長が委嘱する。

3 客員研究員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(研究協力員)

第9条 研究協力員は、第3条に掲げる研究及び業務に協力する。

2 研究協力員は、本学専任の教員以外の者を、研究所長が委嘱する。

3 研究協力員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(運営会議)

第10条 研究所に、研究所の運営並びに研究及び業務に関する事項を審議するため、ジェンダー研究所運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。

2 運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 研究所長

(2) 副研究所長

(3) 第4条第1項第2号に掲げる教員

(4) 第4条第1項第3号に掲げる研究員のうちからグローバル女性リーダー育成研究機構長(以下「研究機構長」という。)が指名する者

(5) その他研究機構長が必要と認めた者

3 運営会議の議長は研究所長をもって充て、議長は運営会議を主宰する。

4 運営会議の構成員は、第2条の目的を達成する上で必要な事項について、運営会議での審議を求めることができる。

5 研究所長が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

6 本条に定めるほか、運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第11条 研究所の事務は、企画戦略課が行う。

(雑則)

第12条 この規則に定めるもののほか、研究所に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。

2 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究センター規則は、廃止する。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

【資料】⑧国立大学法人お茶の水女子大学特別招聘教授に関する規則

(平成 27 年 3 月 25 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人お茶の水女子大学職員就業規則(以下「職員就業規則」という。)第 4 条第 5 項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学(以下「本学」という。)のグローバル女性リーダー育成研究機構に置く研究所において雇用する特別招聘教授に関し必要な事項を定める。

(定義)

第 2 条 この規則において「特別招聘教授」とは、国際的に著名な研究者又は顕著な業績を有する研究者で、グローバルな視野から本学の教育研究活動の一層の推進及び活性化を図ることを目的として、本学が常勤の教員として採用する者をいう。

(選考)

第 3 条 特別招聘教授の選考は、教員人事会議の議を経て、学長が行う。ただし選考に係る審査は、基幹研究院長に付託するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、学長の戦略的人事による選考は、役員会の議を経て、学長が行うものとする。

3 前 2 項の選考にあたっては、国立大学法人お茶の水女子大学教員選考基準第 1 条の規定を準用する。

(定年・雇用期間)

第 4 条 特別招聘教授の定年は 65 歳とし、当該定年に達した日以降における最初の 3 月 31 日(以下「定年退職日」という。)に退職するものとする。ただし、学長が特に必要があると認める職員については、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認める場合には、5 年以内の期間を定めて雇用することができる。

(給与及び退職手当)

第 5 条 特別招聘教授の給与は、国立大学法人お茶の水女子大学職員就業規則第 4 条第 4 項の規定に基づき年俸制を適用して雇用する教員の就業に関する規則(以下「年俸制適用教員の就業に関する規則」という。)

第 2 条第 1 号の規定に基づき採用された教員に関する同規則第 6 条から第 13 条の規定を適用する。

2 特別招聘教授の退職手当は支給しない。

(赴任及び帰国旅費)

第 6 条 特別招聘教授には、赴任及び帰国のための旅費を支給する。ただし、帰国のための旅費は退職後 3 か月以内に本邦を出発する場合に限り支給し、一時帰国のための旅費は学長が必要と認める場合に支給するものとする。

(就業等)

第 7 条 特別招聘教授の就業に関し、この規則に定めのない事項については、職員就業規則の定めるところによる。

2 特別招聘教授の給与に関し、この規則に定めのない事項については、国立大学法人お茶の水女子大学職員給与規程の定めるところによる。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、特別招聘教授に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

2 この規則の施行後最初に採用される特別招聘教授は、この規則に基づき選考されたものとみなす。

附 則(平成 27 年 10 月 23 日)

この規則は、平成 27 年 10 月 23 日から施行する。

附 則(平成 28 年 2 月 19 日)

この規則は、平成 28 年 2 月 19 日から施行する。

【資料】⑨『ジェンダー研究』編集方針・投稿規程

《編集方針》

1. 『ジェンダー研究』(以下、本誌)は、学際的・国際的なジェンダーに関する最新の研究成果を発信し、グローバルなジェンダー研究の発展に寄与する。
2. 本誌は、特集記事・投稿論文・書評からなる。
3. 本誌は特集記事を企画し、時宜にかなったもの、国際的な関心の高いもの、新領域を開拓するものなど、現在のジェンダー研究にとって重要であるテーマで、質の高い論文を掲載する。
4. 投稿論文は、国内外・学内外を問わず公募し、厳正な審査を経て掲載することで、質の高い学術論文の国内外への頒布を進める。
5. 書評は、国内外のジェンダーに関する書籍を厳選し、最先端の研究動向の紹介およびそれについての考察を加えた論評を行う。
6. 本誌の刊行により、国内外・学内外のジェンダーに関する研究の発展を促進し、グローバルかつ有機的な研究交流の構築を目指す。そして、国立大学法人として、男女共同参画社会の実現に貢献する等の、社会的要請にも応える。

《投稿規程》

- 1 投稿する論文は、女性学・ジェンダー研究に関する、学術的研究に寄与するものとする。
- 2 投稿者は、国内外を問わず、学際的に女性学・ジェンダーに関する研究に従事する、原則として修士号取得相当以上とする。
- 3 投稿する論文は、未発表の論文に限る。なお、この規程に違反した場合、新たな投稿を受け付けられないなど、しかるべき措置をとる。
- 4 論文執筆における使用言語は、原則として日本語または英語とする。日本語／英語以外の言語による投稿に関しては、編集委員会において検討する。
- 5 投稿論文は、
 - ・日本語の論文は、注・図表・参考文献を含めて 20000 字以内
 - ・英語の論文は、注・図表・参考文献を含めて 8500 ワード以内
 - ・なお、1 図表 500 字相当、1 ページを要する場合は 1000 字相当とする
 - ・挿図の場合は、1 ページあたり 1000 字、刷り上がり 20 頁内に入ることを原則に、およそ 20 点までとして全体を構成する
 - ・挿図に用いる図版の掲載許可については、投稿者が自らの責任において然るべき手続きをとる。なお許可に要する費用は、投稿者負担とする。

* 定められた字数などの制限を超えた場合、形式において甚だしく不備がある場合には、受理できない。
- 6 論文の提出時には、本文・図表・参考文献のほかに、以下についても提出すること。
 - 6-1 表紙。論文タイトル(副題も含む)と投稿者氏名・所属を、日本語と英語とで記す。(タイトル等の英語表記は、確認のうえ編集事務局で変更する場合もある。)
 - 6-2 日本語要旨。400 字以内。
 - 6-3 英語要旨。200 ワード以内。ネイティブチェック済のもの。
 - 6-4 キーワード。日本語・英語ともに 5 語以内で、それぞれの要旨の後に記載する。なお、執筆者を特定するようないかなる情報(謝辞、科研番号)も記載してはいけない。

資料

7 投稿論文は、ジェンダー研究所ウェブサイト上の、以下のいずれかの投稿フォームより、必要事項を入力したうえで、メール添付にて送付すること。

日本語投稿フォーム

<https://form.jotform.me/72482244933459>

英語投稿フォーム

<https://form.jotform.me/72488720633461>

8 本文と要旨などのテキストのデータは Word と PDF のファイルにし、図、表のデータは Word または Excel と PDF にし、写真は JPEG と PDF のファイルにして提出すること。

9 他の文献等から図、表、写真などの転載を行う場合は、原則として投稿者が自らの責任において必要な手続きを行う。その際の費用に関しては投稿者が負担する。

10 本文、引用文、参考文献、注については、別に定める『ジェンダー研究』執筆要項に従う。英語の投稿論文は *Style Sheet for Journal of Gender Studies* とする。

11 投稿論文の掲載の可否は、査読者による審査のうえ、編集委員会が決定する。ただし、本投稿規定・執筆要項や本誌の趣旨に合致しない原稿、また学術的論文としての水準を著しく達していないと判断された場合、審査の対象外とする場合もある。

12 編集委員会は、査読者の審査にもとづき、投稿者に論文の修正を求めることがある。求められた投稿者は、速やかに論文を修正し、修正対応表をつけて、メールにて提出しなければならない。

13 投稿者による校正は原則 2 回までとする。

14 投稿後、投稿論文を取り下げる場合は、速やかに編集委員会に申し出ること。

15 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。ただし、図・表・写真などが多い場合には、執筆者による自己負担となることがある。

16 掲載論文の著作権はお茶の水女子大学ジェンダー研究所に帰属するものとする。転載を希望する場合には、編集委員会の許可を必要とする。

改訂

1. 2017 年 10 月 27 日制定

2. 2021 年 5 月 14 日改訂

『ジェンダー研究』執筆要綱

<http://www2.igs.ocha.ac.jp/wp-content/uploads/2019/11/yoko2019.pdf>

【資料】⑩ジェンダー研究所ウェブサイト プライバシー・ポリシー

1. 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所(以下、本研究所)ウェブサイトでは本研究所のイベント開催に際して、イベント参加申込者の個人情報(氏名等により特定の個人を識別できるもの)を、本ウェブページ上にて収集することがあります。
2. 収集した個人情報はイベント開催における会場手配や安全確保、配布資料作成の参考として利用するものであり、本研究所のイベント開催通知以外では利用することはありません。
3. 収集した個人情報の管理は、ウェブ担当者が漏洩、紛失、改竄等に対する安全対策を行うことで保護し、その責任は本研究所所長が最終的に負います。
4. 本研究所では、プライバシー・ポリシーを改定することがあります。改定する場合は、当ウェブサイトでお知らせします。

附 則

このプライバシー・ポリシーは、2015 年 7 月 1 日から施行します。

国立大学法人お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構
ジェンダー研究所（IGS）
2021（令和3）年度事業報告書

編集担当：申琪榮・和田容子

発行：お茶の水女子大学ジェンダー研究所
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

Tel: 03-5978-5846

igsoffice@cc.ocha.ac.jp

<http://www2.igs.ocha.ac.jp>

2022年7月作成

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
お茶の水女子大学 ジェンダー研究所

Institute for Gender Studies, Ochanomizu University
2-1-1 Otsuka, Bunkyo-ku, Tokyo 112-8610 Japan

TEL: 03-5978-5846 FAX: 03-5978-5845

igsoffice@cc.ocha.ac.jp

<http://www2.igs.ocha.ac.jp>

